

環境放射能水準調査（文部科学省委託調査）

猪野正和 井上智博 内藤季和 押尾敏夫 中西基晴

1 調査目的

一般環境中の雨水、浮遊じんの他、飲料水、野菜等の放射能濃度を把握するとともに、影響評価の基礎資料とする目的で環境中の放射能の測定をおこなう。

2 調査方法

2.1 調査期間：2006年4月1日～2007年3月31日。

2.2 調査地点：対象地域はいずれも千葉県内である。

2.3 調査試料および分析項目：全β放射能（定時降水：前日9時から当日9時の間の降水）・大気浮遊じん（4検体）・降下物（12検体）・土壌2深度・陸水（源水、蛇口水）・精米・牛乳・野菜類2種・日常食（2検体）・海水・海底土及び水産生物（カツオ）の核種分析、サーベイメータ（携帯測定器）及びモニタリングポストにおける空間放射線量率の測定。

2.4 測定方法：試料の採取及び前処理は「平成18年度放射能測定調査委託実施計画書」、測定は旧科学技術庁編の各種放射能測定法シリーズに基づき行った。

2.5 測定装置

(1) 全β放射能

GM式全β自動測定装置：アロカJDC-163型

(2) 空間線量率

モニタリングポスト：アロカ MAR-21

サーベイメータ：アロカ TCS-151

(3) γ線核種分析

Ge半導体検出器：ORTEC GEM-15180P

波高分析装置：SEIKO EG&G MCA-7700型

3 調査結果

(1) 全β放射能調査：定時降水中の全β放射能調査結果を表1に示す。平成18年4月、平成18年5月、平成18年12月および平成19年2月の各1試料から放射能が検出された。過去3年間の全国平均値と比較すると低かった。

(2) 空間線量率調査：測定結果を表1に示す。モニタリングポスト、サーベイメータによる測定値は、平成17年度全国平均値よりも低く、過去の本県データと比較しても、異常値は認められなかった。

(3) γ線核種分析調査：¹³⁷Csについては水産生物から0.26Bq/kg検出された。

(4) 10月に行われた北朝鮮の核実験でも定時降水、空間線量率及び大気浮遊じんとともに異常値は認められなかった。

表 1 定時降水試料中の全β放射能調査結果および空間放射線量率測定結果

採 取 年 月	降水量 (mm)	定時降水試料中の全β放射能				空間放射線量率			
		放射能濃度 (kBqcm ⁻³)			月間降下量 (MBqkm ⁻²)	モニタリングポスト(nGyh ⁻¹)			サーベイメータ (nGyh ⁻¹)
		測定数	最低値	最高値		最低値	最高値	平均値	
平成18年 4月	113.1	11	N. D.	2.1	2.8	22	41	24	50
5月	96.8	10	N. D.	1.5	25.9	22	48	24	49
6月	108.4	6	N. D.	N. D.	N. D.	23	39	24	44
7月	128.7	9	N. D.	N. D.	N. D.	23	43	24	47
8月	131.0	11	N. D.	N. D.	N. D.	23	38	24	46
9月	204.2	10	N. D.	N. D.	N. D.	23	42	24	47
10月	288.0	5	N. D.	N. D.	N. D.	22	37	24	44
11月	125.5	6	N. D.	N. D.	N. D.	22	37	24	44
12月	209.3	5	N. D.	1.6	15.6	22	39	24	45
平成19年 1月	43.1	5	N. D.	N. D.	N. D.	22	34	24	46
2月	77.0	7	N. D.	1.4	13.0	22	50	24	45
3月	53.9	6	N. D.	N. D.	N. D.	22	43	24	45
年間値	1579.0	91	N. D.	2.1	57.3	22	50	24	44~50